

<h1>HOMAS</h1> <div style="text-align: right;">日本語版</div> <h2>ニューズレター</h2>	<p style="text-align: center;"><b>No. 52</b></p> <p>平成19年(2007年)12月1日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫</p>
<p style="text-align: center;"><i>Hokkaido Massachusetts Society</i></p> <p style="text-align: center;"><b>北海道・マサチューセッツ協会</b></p>	<p>発行所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 TEL011-231-3392 FAX 011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail: homas @ siren. ocn. ne. jp</p>

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち ⑧

## 北海道近代の黎明・・・松前藩から北海道へ —交易の拠点「箱館」の発展と高田屋嘉兵衛の活躍—

### ■夜明け前

近年、道南地区の縄文遺跡群が大きな話題になっていますが、北海道に人々が定住したのはいつなのか、興味深いことです。……歴史的にはかなり古くから、アイヌ民族が本州東北部から北海道、千島列島、樺太(サハリン)を生活圏としていたようですが、14～15世紀の道南には多くのアイヌ集落があり、和人(シサム・シャモ)集団との交易が盛んに行われていたようです。また道南地域には、津軽の十三湊(とさみなと)を拠点とした安藤(安東)氏配下の豪族による、12の「館」(たて)＜城砦・拠点＞を中心とした和人集落がつくられて、蝦夷(アイヌ)との産物の交易で繁栄し、その活動は日本海一帯から大陸にまで及んでいたといわれます。しかし、和人によるアイヌ人刺殺事件を発端として、コシヤミン酋長を中心とするアイヌ人側が12の「館」(たて)を激しく攻撃しました。その結果和人10館(たて)が敗れ、やっとな下之国茂別館・上之国花沢館の2館(たて)が勝ち残ります。その後、上之国の守護武田(蠣崎)信広がコシヤミン酋長父子を弓で射殺、アイヌ軍が崩壊して戦いが終結したといわれます。

### ■松前藩の時代へ

こうして、武田(蠣崎)信広(松前藩の祖)が道南の館主の覇者となり、第5代武田慶広のときに豊田秀吉や徳川家康から、独立した諸侯とみとめられて姓を「松前」と改め、「福山城」(松前城)を築城して、「松前藩」の成立となります。松前藩は、米がとれないことから「無高(むだか)の藩」と呼ばれ、海産物・毛皮などの交易で繁栄を築いていきますが、シャクシャインの戦い、クナシリ・メナシの戦いなどアイヌ民族との抗争も続きました。アイヌ交易の独占的な権利を得た松前藩は、生産物の交易を拡大し、松前・江差・箱館の「松前三港」を交易拠点として繁栄しました。やがて、天明期(1781～1788)ころから、北前船の出現により、寄港地も多くなりますが、箱館に入港する船が急激に増加するようになり、天明5年(1785)には、長崎俵物会所が箱館に置かれてから、「箱館」が俵物集荷拠点となり発展していきます。

松前藩は、幕末に勤王派となったために、箱館戦争(1868-69)で土方歳三の旧幕府軍の攻撃によって落城、松前藩の栄華は灰燼に帰します。そして明治2年(1869)版籍奉還を願い出て、260年余の歴史の幕を閉じるのです。そして明治4年(1871)、廃藩置県により「館県」となります。

江戸中期からロシアの南下政策で、ロシア船が各地に寄港を求めてきましたが、松前藩は、国法により交易できないと通告していました。しかし、寛政元年(1789)6月、ロシア使節アダム・ラスクマン一行が箱館に入港しました。これが箱館に入港した最初の外国船でした。寛政8年(1796)9月、イギリス航海士ブロートンのプロビデンス号が内浦湾に來航しました。(この時、ブロートン船長が有珠山や駒ヶ岳などの火山軍に驚き「ボルケイノーベイ(噴火湾)と命名したとい

われます。」 度重なる蝦夷地近海の外国船出沒に対して、幕府は北方警備が急務であるとし、寛政10年(1798)に蝦夷地直轄の方針を決定します。幕府は寛政11年(1799)東蝦夷地を松前藩から上知させて直轄し、箱館に蝦夷奉行(のち函館奉行に改称)を置きました。対外警備のため、第一に釧路・根室への沿岸道路の開削を急ぎ、官船も準備しました。あわせて西蝦夷地の交通条件も駅遞を設けるなどして幕府直轄後に大きく改善されました。(その後まもなく伊能忠敬・間宮林蔵らの測量により、ほぼ完全な北海道全図ができました。)蝦夷地の生産増強・農耕をすすめるために八王子からの屯田兵を入植させたがあまり成功しなかったといわれます。それから、場所請負人の搾取を排除するべく、蝦夷地交易の改革「幕府直捌(じきさばき)」を実施しています。さらに、キリスト教などの侵入を防ぐために、東蝦夷地全体に五カ寺が計画されましたが、有珠の浄土宗善光寺(文化元年1804)、様似の天台宗等じゅ院(文化2年1805)、厚岸の臨済宗国泰寺(文化2年1805)の三カ寺が建立されました。のちに善光寺末寺として、宗谷に北蝦夷地最大の寺院として浄土宗護国寺(安政3年1856)が建立されています。

#### ■箱館港の発達と高田屋嘉兵衛の活躍

蝦夷地が幕府直轄地となって、箱館奉行所(享和2年・1802)が、重要な拠点となります。国後・択捉を含む東蝦夷地全域の産物が直接箱館に集荷されるようになったのです。高田屋嘉兵衛の択捉漁場開発もこうした状況下で幕府の命令によって行われたのです。

ここで、北洋漁業の先駆者、高田屋嘉兵衛(1769～1827)の生涯をたどってみたいと思います。嘉兵衛は、明和6年(1769)、淡路国百姓弥吉の長男として生まれています。〈北海道開拓使設置のちょうど100年前です。〉嘉兵衛は、貧しい8人家族の長男として、12歳の時奉公に出ます。淡路島の奉公先雑貨商「和田屋」で商売のコツを学び、寛政2年(1790)21歳の時、兵庫港に出て舟稼ぎをやり、24歳で沖船頭となり回曹業を営むようになります。寛政8年(1796)3月、「辰悦丸」(1,500石積)を新造して、27歳ではじめて船主となり、箱館港に入港。その後南千島・国後・択捉との交易・開発事業のため運航することになります。



【写真】辰悦丸 1500石積〈約150屯〉(20分の1模型)

札幌市教育文化会館ロビー展示 〈札幌アカシヤライオンズクラブ寄贈〉(昭和56年)

以後、蝦夷地の産物との交易のため毎年箱館に来港するようになります。寛政10年(1798)には弟金兵衛を支配人として箱館大町に支店を設け、5艘の所有船で兵庫・大阪・下関と箱館を往復するようになりました。寛政12年(1800)高田屋嘉兵衛は、弟金兵衛とともに辰悦丸に乗り、6艘を率いて択捉島へ渡り、17ヶ所の漁場を開くことに成功します。

その後、嘉兵衛は、官船5 曹の建造を命じられ、ただちに大阪に下ってこれを造船し、翌享和元年(1801)4 月箱館と兵庫を拠点に「蝦夷地定雇船頭」として官船及び官雇船のすべてを一手に支配して、千島方面の運航に当たったといわれます。帝政ロシアの最初の遣日使節としてラクスマンが寛政4 年(1792)根室に来航、翌年6 月江戸幕府宣諭使との会見を求めて松前に来航しますが、松前藩は長崎が外国との交渉窓口であるとして、ロシア側の信書を受理していません。そして、文化元年(1804)、ロシア使節レザノフが食糧補給のため、日本との通商を要求して長崎に来航しますが、幕府は鎖国を理由に、通商を拒絶。その結果、文化3~4 年(1806~1807)ロシアは樺太・択捉を襲撃します。その後幕府は西蝦夷地も直轄し、南部・津軽藩さらに秋田・庄内藩からも出兵を命じて警備を強化しています。

#### ■ゴロウニンが捕縛され、函館・松前へ

こうした日露の緊張下で、文化8 年(1811)5 月4 日、千島測量中のロシア船ディアナ号艦長ゴロウニン海軍少佐以下8 名が国後島に上陸したところを、幕府役人が捕縛するという事件が起きました。ゴロウニンは、根室から陸路護送されて7 月箱館に着き、8 月松前へ移され、2 年3 ヶ月拘禁されることになります。ゴロウニンは、帰国後の「日本幽囚記」で、松前と箱館での2 年3 ヶ月余りの幽閉生活で出会った日本人の印象について「天下で最も教育のある国民である。日本には読み書きのできない者や、自分の国の法律を知らない者は一人もいない」と述べています。同じ文化8 年(1811)8 月14 日、高田屋嘉兵衛は、観世丸で択捉から箱館への帰路、国後ケラムイ岬沖で、ディアナ号のリコルド副艦長に発見され、ロシア側に拿捕されます。

こうして、嘉兵衛が、随員の5 人と一緒にカムチャツカに翌年春まで拘束される事件がおこります。しかし、その拘束期間、嘉兵衛は、その率直さと正直な態度でリコルドの信頼を得るようになったといわれます。文化10 年(1813)5 月、リコルドは、嘉兵衛らを連れて、国後で幕府とロシア側の交渉を開始します。嘉兵衛は、人質としてではなく、調停役として、カムチャツカで学んだロシア語を駆使して、日露の交渉・調停に尽力し、ゴロウニンの釈放と高田屋嘉兵衛自身の帰還が実現します。このゴロウニン事件を機に、ロシアとの関係は改善され、緊張状態は緩和されたといわれます。その結果幕府は、直轄していた蝦夷地を文政4 年(1821)、松前藩に返しています。この嘉兵衛の努力によって、その後の日露の交易も好転して盛んになりました。嘉兵衛は、こうして箱館の町を発展させ、北洋漁業のみならず日露の民間外交の基礎を築いた人物として高く評価されています。しかし、嘉兵衛は、このロシアの抑留生活で、体調をくずしたといわれ、5 年後の文政元年(1818)50 歳の時、箱館の店と高田屋の事業すべてを弟に譲り、22 年間滞在した箱館を去りました。その後、郷里淡路島で余生を送り、文政10 年(1827)、59 歳で、この世を去りました。

その後高田屋は、天保2 年(1831)、ロシアとの交易について、幕府の厳重な取り調べを受け、結果的に所有船12 隻すべてを没収され、船家業差止め、所払いの処分を受けて没落の悲運をたどっています。

現在、函館市の宝来町に高田屋嘉兵衛の銅像と、高田屋嘉兵衛資料館があります。また根室市の金毘羅神社にも銅像が建てられています。平成11 年(1999)、高田屋嘉兵衛とゴロウニン、リコルドの子孫が松前・函館を訪れて、それぞれに先祖の事績に思いをめぐらせたといわれます。

#### ■松前藩から北海道へ

嘉永6 年(1853)6 月3 日ペリー艦隊が浦賀に来航します。そして翌年再来日、3 月3 日に日米和親条約が締結され、下田・箱館(2 港)の開港が決定されました。条約締結後4 月、ペリー一行は箱館にやってきました。同年8 月、ロシアのプチャーチンの軍艦ディアナ号が来航、下田で条約交渉時の11 月4 日大地震でディアナ号が大破したため、幕府が代りの船を建造するという出来事もありました。これに対して後日、ロシア側から幕府へディアナ号の大砲が返礼として寄贈されています。

安政2 年(1855)の箱館開港を控え、箱館奉行の役所と住居の建設が急務となります。結局、武田斐三郎が設計担当した「五稜郭」が、ヨーロッパの城塞都市をモデルとして7 年の歳月をかけて建設されました。またその北側に箱館奉行所に勤務する役人約400 人の住宅(長屋)が半分ほど建てられたといわれます。「五稜郭」が奉行所として使用され

たのは、約4年間でした。幕府崩壊、箱館戦争を経て、その後、明治4年(1871)には、開拓使によって取り壊されることとなります。安政6年(1859)に貿易港として開港した箱館は、欧米にも広く知られ、ロシア人やアメリカ人、イギリス人、フランス人などの異文化交流、諸外国のさまざまな舶来品が流通する国際都市であったといわれます。

明治元年(1868)1月の京都の鳥羽伏見の戦いにはじまる戊辰戦争は、2月上野の彰義隊の戦い→8月会津戦争・飯森山(白虎隊自刃)→そして翌年5月の箱館戦争で終結します。明治2年(1869)7月、明治政府により開拓使が設置され、「北海道」と改称して新時代を迎えることとなります。

＜参考文献及び参考資料＞

- ・「新版北海道の歴史」下 関秀志・共著 北海道新聞社
- ・「北海道の歴史」榎本守恵著 北海道新聞社
- ・「ほっかいどう百年物語」STV ラジオ編 中西出版
- ・「北海道の歴史散歩」北海道高等学校日本史教育研究会編 山川出版社
- ・「函館歴史文化観光検定公式テキストブック」同作成委員会 函館商工会議所
- ・その他インターネット資料など

**新企画 三笠バスツアー1日コース……北海道の石炭と鉄道の歴史発見の旅**

**平成20年度 第1回 国際交流ランチセミナー in 三笠 (案)**

—クロフォード公園・三笠鉄道記念館・三笠市立博物館・三笠山コース—

日時 平成20年6月28日(土) 8:00～18:00 (実施予定)

コース 札幌NHK前出発(三笠市へ)クロフォード公園(旧幌内太駅舎)→三笠鉄道記念館→旧幌内炭鉱跡(音羽坑口)(立坑)→<昼食会>→三笠市立博物館→三笠山(観音山)三十三観音めぐり→札幌帰着

参加費 会員・学生 3,500円 一般 4,000円(昼食代・資料代・写真代・バス代)

<入館料(団体料金) 鉄道記念館420円・博物館300円は、マ州協会負担 >

★三笠の歴史は、早くから注目されていた幌内川や幾春別川上流の石炭層が明治6年(1873)、開拓使顧問ホーレス・ケブロン(1804～1885・米マサチューセッツ州出身)の石炭炭田等の資源調査を受けて、ベンジャミン・S・ライマン(1835～1920・米マサチューセッツ州出身)が幌内川上流を精密調査して石炭埋蔵量の良質で豊富なことを建言したことにより近代化の歴史が加速します。開拓使は、明治10年(1877)幌内炭山の開坑を決定します。

★明治11年(1878)、ジョセフ・リ・クロフォード(1842～1924・米ペンシルバニア州出身)が幌内鉄道建設の技師長として招かれ、幌内から小樽までの石炭輸送を目的とする手宮—札幌間(明13、11開通)、札幌—幌内間(明15、11)の「幌内鉄道」を完成させます。こうして三笠の歴史の歯車が大きく動き出しました。しかし炭坑発展のかげには、樺戸集治監(明14設置)に次いで、空知集治監(明15—明34)が三笠に設置されて、多くの囚人が道路建設やガス爆発・落盤事故の多発する坑内作業に使役された過酷な歴史もありました。これらの歴史は「三笠鉄道記念館」「三笠市立博物館」で学習することができます。

★桂沢湖(桂沢ダム・昭和32年完成)周辺に分布していた白亜紀の地層からは多くの化石類が発掘されており、天然記念物「エゾミカサリュウ」(愛称リュウちゃん)等の恐竜化石類や、約3,000点のアンモナイト等が「三笠市立博物館」に展示・収蔵されています。なお、桂沢湖畔に、復元された約7メートルのリュウちゃんが立っています。

★山容が奈良の三笠山に似ていることから古くから「三笠山」(113m・標高差76m)とよばれている山があり、大正2年(1913)大凶作の後、村の有志が豊作を祈願して大正4年(1915)西国33ヶ所の霊を写して、33観音を建立したことから「観音山」とも呼ばれて信仰の山となっています。

★明治39年(1906)、幌内、幾春別、市来知(いちきしり)の三村合併のときにこの山の名をとって「三笠山村」となりました。そして昭和17年「三笠町」となり、さらに昭和32年「三笠市」となって今日に至っています。

今回は、1日バスツアーとして、北海道の石炭と鉄道・北海盆唄発祥の地「三笠コース」を企画しました。米国マサチューセッツ州からの短期交換留学生グループや北大留学生・小樽商大留学生・札幌国際センターJICA研修生などの各国ゲストと一緒に、異文化ふれあいの旅「国際交流セミナーツアー」1日コース7を楽しんでいただきます。

## 米国セミナー特別講演会 記録 (要約)

### 「経済交流の視点から見た北海道とマサチューセッツ州」

講師 日本貿易振興機構(ジェトロ)海外調査部次長 大久保 徹夫 氏

日時 2007年8月28日(火) 16:00~17:30

会場 北方圏センター会議室(道庁別館12階)

主催 北海道・マサチューセッツ協会 (社)北方圏センター  
ジェトロ北海道貿易情報センター

後援 北海道新聞社(特別) 北海道 札幌市 在札幌米国総領事館  
北海道日米協会 (財)札幌国際プラザ (社)北太平洋地域研究センター

「経済交流の視点から見た北海道とマサチューセッツ州」というテーマで、北海道とマサチューセッツ州両地域間の経済ビジネス交流を促進するためにはどうしたらよいか、前任の在ボストン日本国総領事館経済担当領事のご経験から、最近のマサチューセッツの事情についてお話していただき、今後の国際理解に大きな示唆を与えていただきました。(参加者 約50名)

#### [講演要約]

私は2003年10月から3年間ボストンにおりましたので、この3年間に、マサチューセッツ州の政治とか経済、スポーツなど各分野でいろんなことを見聞いたしました。今回はまずその中からいくつかご紹介させていただきます。

まず第1に、現在大統領候補に立候補しているミット・ロムニー前知事(共和党)ですが、彼は2003年1月から1期4年間だけ州知事を務めました。同氏は大変ハンサムで、共和党候補としては3番目くらいを走っていると思います。宗教はモルモン教で非常に信心深い方です。昔から、キリスト教といってもプロテスタント中心のアメリカ社会の中で、はたしてロムニー氏が大統領として受け入れられるかというのが、一つの大きな鍵かと思います。かつて、ケネディがカトリックの大統領として始めて当選したとき大きな話題になりましたが、ロムニー候補の置かれた状況の厳しさが分かります。ロムニー氏はお金持ちで、もともとベンチャービジネスで、成功されている方です。2002年のソルトレーク冬期五輪の組織委員会の会長として手腕を発揮しました。また同氏のお父さんがミンガン州の知事をやっていました。

アメリカの医療保険制度は、日本のような国民皆保険ではなく、全米で4千数百万人の無保険の方がいます。マサチューセッツ州は医療保険制度の導入に積極的であり、昨年、共和党、民主党が一緒になって、新しい制度を作りました。この7月からマサチューセッツ州が全米に先駆けて州民(子供は除く)の医療皆保険制度を導入しています。同州では10人以上を雇用する企業においては従業員すべてが民間の医療保険に入らなければならないことになり、これを守らない企業は課徴金が課されることになっています。この制度もロムニー知事の指導力のもとにできたわけであり、そこは高く評価されています。

しかし、一方では、ロムニー氏は社会問題に保守的な政治家でありまして、例えば中絶は反対です。ゲイの問題、すなわち同性愛問題に対しても次第に批判的なことを言い出しています。同氏の社会問題に対する姿勢は、むしろブッシュ大統領に近いといえます。共和党の大統領の候補者としては、マッケイン上院議員(71歳)、ジュリアーニ氏(元ニューヨーク市長)(63歳)あたりが有力候補ですが、私はロムニー氏はかなり有力な候補の1人だと思っています。まだ今後候補は出てくるとは思いますが、民主党はヒラリー・クリントン氏(60歳)、共和党ではロムニー氏(60歳)が注目されていると思います。

2番目に政治的な問題として、これもおもしろいのですが、2005年11月、イタリア系のメニーノ氏がボストン

の市長に再選されました。その時同時に行われた拡大市議会議員選挙（5名しかいない）で、韓国系のサム・ユーン氏（35歳位、若い韓国系の2世）が当選しました。これはアジア系として全く初めてのことでした。白人優位で人種差別が厳しいニューイングランドで、市議会議員としてアジア系移民の当選はめずらしいことです。実際、彼が出席していた会合に、私も同席したことがあります。同氏は（ボストン市議会の中で）自分はアジア代表として頑張る、と言っていました。でも残念なことに、彼の頭の中に、日本は含まれていないようでした。要するに、彼の言うアジアとは韓国、中国、ベトナムなどのアジアの国々なんですね。

3番目は、政治経済的な話題ですが、15年以上にわたって行われたボストンの高速道路93号線を全部地下化してまうビッグプロジェクト「ビッグディグ」です。この壮大な計画が昨年1月に完成しました。まだその高速道路跡地を公園にする計画は進んでいません。この部分は民間の資金を導入するのではなかなか思うように進まないようです。まあ、いずれできると思います。この「ビッグディグ」は、20年位前に、マサチューセッツ州出身で、連邦下院議長を務めていたティップ・オニールという有力議員の功績によるところが大きいのです。同氏が、連邦議会の中で、他州の多くの議員を説得して回るという力仕事をして、公共事業をボストンに持ってきたのです。当時、ボストンは高速道路の渋滞がひどくて大変でした。そこで、高速道路を地下に埋めて車線を増やすことで対応しようとしたのです。それによって、景観もよくなるし、渋滞もなくなるということで、結果としては満足のいくものになりました。ただ、当初、20億ドル、25億ドルともいわれていた工事予算が、どんどんふくれあがって、最終的に147億ドルにまでなり、この間いろんなところから批判が出て結構たいへんでした。私が赴任していた2003年10月には、まだ高速道路の高架橋が一部残っていたのですが、それがもう全部きれいになくなっていました。もう、すべて地下に埋められています。あわせて、ボストン空港とボストン市内をつなぐ新しい地下トンネルもできまして、それもうまくいったと思います。工事期間中、公共工事につきものの、手抜き工事もありました。地下に埋めた高速道路の天井部分が通行していた車の上に落下して、人が亡くなったんです。それでその裁判も結構大変でした。ほかにも手抜き工事があって、水漏れがあったり、いろいろ問題が出ましたが、全体的にみれば「ビッグディグ」はうまくいったのではないかと思います。

それから4番目は、教育関連で、ハーバード大学の学長問題です。これはご存知だと思いますが、2005年1月に当時のハーバード大学学長であったローレンス・サマーズ氏が、この方は以前クリントン政権の財務長官をやった方で経済学者でもありますが、ある会合で、女性は生まれつき科学に向いていないという発言をしました。これが女性の教授陣から厳しい批判をあびました。その結果、ローレンス・サマーズ学長は、昨年2月に辞意を発表し、同年6月には辞任しました。そしてその後は、ハーバードにも女性の学長が就任しています。もうひとつは、ハーバードと並ぶMIT（マサチューセッツ工科大学）で起こった、パワーハラスメント事件です。これは日本では報道されていませんが、日本人の有名なノーベル賞学者が、去年の5月から、いろんなスキャンダル（要するに、パワーハラスメント）に巻き込まれ、結構新聞紙上をにぎわしました。どういうことかという、彼は優秀な学者ですが、MITの自分と同じ研究分野のところに、他大学の若い優秀な女性研究者が移ってくるの教授会決定がなされていたにもかかわらず、その女性研究者に対して簡単なEメールで、「あなたはMITにこないほうがいいですよ」と言って、来させないように圧力をかけたというのです。これが新聞紙上でも大きく報道され、問題になりました。新聞情報なので、実際の真偽のほどはわかりませんが、MITの女性の学長、スーザン・ホークフィールド氏が、学内にこのための委員会を作って、結構大変だったようですが、一応は収まったということになっています。マサチューセッツの現場で、このように大学経営をめぐる日本以上に生々しい問題を目の当たりにしました。

5番目ですが、もうひとつ、重要な経済問題に触れておきたいと思います。ボストンには有名なジレット社というヒゲ剃りメーカーがあります。この会社は100年位の歴史を持つ有名なヒゲ剃りメーカーで、90年代に乾電池メーカーや、整髪料の企業を次々と買収して大きくなってきました。実はこのジレット社が、2005年1月、オハイオ

州のシンシナティにあるP & G社に買収されるということになりました。これは地元で大変な問題になりました。ジレット社は100年の歴史を持つボストンの有力企業なのですが、こともあろうに、他州の企業に買収されてしまうというのはどういうことなのだとということで、感情的な問題にまで発展しました。雇用面での警戒や社会貢献面での影響など結構いろいろな懸念があり、さらに地元の企業が他州の企業に買収されるのは、けしからんといって、同州の州務長官までもが動き、政治的にも圧力をかけたりしました。結局はP & G社による買収が成立しまして、今はもうジレット社というのは、P & G社のヒゲ剃り部門ということだけで残されています。その後リストラが行われて、かなりの人員削減が行われました。ボストンで2番目に高いブルーデンシャルビルという高層ビルがありますが、以前はそのビルの真ん中あたりの階をジレット社の本社が占めていました。P & G社による買収によってブルーデンシャルビルに置かれていたジレット社の本社機能はなくなり、本社機能はオハイオ州に移りました。他に、この数年間で、ジョン・ハンコックという生命保険会社がカナダの生命保険会社を買収され、またフリートという地元の銀行がバンク・オブ・アメリカに買収されました。あと幾つかボストン・マサチューセッツの企業が、ほかの州の企業に買収されるということが、この2004、5年を前後に行われましたが、これがひとつの特徴でありました。

それでは、ようやく本題に入りますが、北海道とマサチューセッツ州の交流の歴史については皆様よくご存知ですのでここでは詳しくは申し上げません。私は、以前、札幌時計台近くの札幌MNビルにあるジェトロ北海道事務所にて2年半ほど勤務していましたが、当時毎日時計台の鐘を聞きながら、仕事をしていました。時計台の鐘がボストンの会社のものだと覚えていたので、ボストンに行った際調べてみようと思っていたのですが、すでにその会社はなくなっており、がっかりしました。しかし、札幌時計台の鐘はなかなかすばらしく、今でもその鳴り響く音を時々思い出しています。

両地域間の交流の歴史は皆さんご存知のとおり、大学交流、自治体とか民間の交流がどんどん進んできて、90年に北海道とマサチューセッツ州が姉妹提携をし、双方に北海道・マサチューセッツ協会ができました。その交流は文化とか教育という面ではある程度大きな成果が出たのではないかと思います。ただ、ちょっと注意しておかなくてはいけないのは、日本では姉妹都市交流は自治体を中心になってやっていますが、アメリカの場合ではボランティア団体がやっています。ここが日米で大きく違います。アメリカでは自治体がお金を出してやっているわけではありません。例えば、日本側では自治体の国際課というセクションが担当しています。しかし、アメリカではボランティア団体が担当しているために、日本の自治体の相手と結びつかないという場合があります。マサチューセッツ州の場合は州政府の貿易投資交流室がやっていますが、州によってはそういう組織がないということがあります。そういう日本とアメリカとの違いを認識した上で、地域間の交流を進める必要があります。

地域経済活性化のために、自治体は、日本でもアメリカでもやっぱり産業交流、経済交流をやっていかなくてはいけないと思います。アメリカでも、海外との経済交流、産業交流というのは、産業の発展や雇用の拡大を期待できるので、予算を出してきちっとやっています。文化交流や教育交流は、比較的民間サイドにまかせておき、経済効果が期待できるところについては、自治体もそれなりにお金を出してきちっとやるべきだと私は思います。

それから北海道の十勝圏と北見市が行っていた産業交流について少しご紹介します。私がこちらのジェトロにいたとき、これらの地域の海外との産業交流のお手伝いをさせていただきました。十勝圏はデンマークと食肉とか食品加工の分野で交流をやっており、北見市はフィンランドのオウル市と寒冷地型建築技術の分野で交流をしていました。ともにジェトロがお手伝いしましたが、それなりの成果があったと思います。これは、十勝圏、北見市がもちろん地元の公的な予算をしっかりと手当てしたほか、民間の資金も導入し、さらにジェトロの予算も組み合わせるという交流事業をやったという事例でございます。今でもジェトロではそういう新しい産業交流事業をやっていますので、北海道でも今後活用されたらどうかと思っています。

次に北海道とマサチューセッツ州の間で交流すべき産業分野ですが、IT産業分野は、ご存知のように札幌は最近非常に伸びてきておりますが、マサチューセッツ州も、ルート128号線という環状線沿いにIT産業が発達しました。とりわけ、90年代には大いに栄えましたが、2000年から2001年くらいにITバブルが崩壊して、これがガクッとだめになり、その後、バイオ産業、医療産業、医療機器、そういった分野が徐々に発展してきたというところ です。

バイオ産業に関しては、ボストンは医薬品分野を中心に世界的な先進地ということで、なかなか交流相手としては、大変かと思われませんが、農業バイオに関しては交流の可能性が高いと思います。農業バイオでは、州西部のマサチューセッツ州立大学アマースト校の食品科学部が有名でして、私もそこに行ってお話しをしてきましたが、北海道企業との交流にも関心があると言っていましたので、そういうところと交流できるといいと思いました。

産学連携については、北海道でも、最近北大が熱心にやられていますが、ボストンは、ハーバード、MITを中心に極めて産学連携がうまくいっているところです。ボストンの場合は、自然発生的にバイオ関係のクラスターができていて、大学を中心にベンチャーキャピタルとかいろんな支援する団体とかコンサルタントのネットワークもうまくできています。これが成功の要因であります。こういった自然発生的なクラスターはなかなか他の地域ではまねのできないものです。マサチューセッツ州の中でも、マサチューセッツ州立大学の医学部のある、同州の真ん中ウースター市あたりには、意図的にインキュベーションセンターを設置しバイオクラスターを作るという試みがおこなわれていますが、やはり、自然発生的にできたボストンケンブリッジ地区のクラスターと比べると、うまくいってはいないという気がします。

ボストンには、大学とか病院がいっぱいありますが、交流をするためには、やはりきっかけがないとなかなか難しいものがあります。私が一番大事だと思うのは、先ほど申し上げたマサチューセッツ州立大学アマースト校の食品科学部です。同大学には、産学連携の施設もありますのでそういうところを一つのきっかけとして働きかけるのがよいと思います。それから、ボストン周辺には、北海道出身者で、大学、研究機関で活躍している人が結構たくさんいます。MIT、ハーバードといった有力大学にもいますので、それも一人、二人ではなく、何人もいますから、そういう方々との関係をきっかけにして、うまく連携してやるのがひとつだと思います。いきなりこちらから出かけていって、マサチューセッツ、ボストンの大学、研究室と真正面からやろうとしても、大変です。単なる語学の問題というよりも、彼らとの考え方の違いというのがありますので、ちょっと慎重にやった方がいいと思います。たとえば、マサチューセッツの日本の企業でも、大学との産学連携において、日本人の研究者と組んでいるケースがいくつかあります。バイオ関係では、「エーザイ」がハーバード大学の日本人研究者と組んで、ボストン郊外に大きな医薬品の研究所を持って成功しています。また、「大塚製薬」がM&Aで地元化学品企業を買収して、MITの日本人の研究者をつかたりしながら結構うまくやっています。それから、アメリカでは、企業が大学と契約を結んでやろうとしても、大学が強気なんです。アメリカの場合は大学の競争力が強いので、アメリカの大学がとった特許を使おうとしても、企業側にとっては、あまり利益にならないような、それぐらいの強気な交渉を大学側がしてくるので、日本企業も大変だとききました。北海道からは、医療機器商社の「ムトウ」が進出しています。「ムトウ・アメリカ」は、現地に駐在員を置いていますが、彼らのお話を聴いていると、ビジネスはある程度うまくやられているとのことですが、大学との関係では結構苦労されているようです。

マサチューセッツからは、姉妹提携10周年の2000年に、カール・セルッチ州知事が北海道に来られました。当時はクランベリーへの対日輸出を主目的に来られたわけですが、売込みが上手くいきませんでした。マサチューセッツ州では、デューカキス知事のあと16年間、ずっと共和党政権が続いています。この共和党政権のもとで、北海道に州知事が率いる経済ミッションを送ったけれど、目立った成果が出なかったため、(税金の無駄遣いであるとして)州の中でも批判が出て、厳しく問い詰められたという話を聞きました。そのあと就任したロムニー知事は、今の北



海道庁以上に厳しいリストラをかなり大胆にやったというように聞いています。そして、一方では、バイオ産業が大事だということで、州政府はバイオ分野に重点的に州政府予算を投入したりしています。本年1月に知事に就任した民主党系のパトリック知事（同州初の黒人の知事）は、今年5月、「バイオ2007」という世界的なバイオコンベンションがボストンで開かれた時に、バイオ産業の振興が大事だと、今後10年間に10億ドルの州の資金を投入するという発表をしました。年間1億ドル（約115億円）の予算をバイオ産業振興のためにマサチューセッツ州が投じることになりますが、内訳は半分くらいは起債してお金を集め、あと4分の1は企業への減税・免税、残り4分の1が純粋に州の補助金とのことです。マサチューセッツ州政府はそれくらいの力の入れ方で、同州はバイオで生きていくんだということが明確に示されています。現パトリック知事は積極的にバイオ分野に州の予算を投入していますので、ハーバードとかマサチューセッツ州立大学とかの地元有力研究機関には相当お金がいくんではないかというふうに見られています。バイオ分野での産業交流をする上で一番大事なことは、マサチューセッツ州にある、いろんなバイオ関係の技術であるとか、リソースを外国の企業が買いたいとか、あるいは導入したいとか、そういうやりとりをする場を活用することです。マサチューセッツバイオ協会（MBC）という業界団体が、毎年ボストンでそうしたビジネスマッチングの会合を開いているのですが、日本の企業はあまり参加していません。ある程度バイオ関係に詳しい通訳やコンサルタントが必要かもしれませんが、北海道のバイオ企業も思い切ったところに出かけて行って、入っていくのも大事なことかと思えます。隣国のカナダはこうした会合参加にかなり力を入れていました。

それから、観光についてですが、ボストンでは野球が大変人気のあるスポーツです。しかも、「レッドソックスネイション」といって、要するにレッドソックス王国といえますが、野球王国的なイメージです。レッドソックスは、ヤンキースと同じリーグで争ってますが、ボストンでは、ヤンキースは、非常に嫌われています。ボストンに行って、ヤンキースが好きだなんて言ったら、大変な目にあいます。ボストンの野球場でおもしろいのは「YH」というイニシヤルです。「YH」というイニシヤルの帽子を被っているレッドソックスファンをよく見かけます。ボストンはB（ビー）というイニシヤルの帽子なんですが、「YH」って何だと思いませんか？これは、「ヤンキー・ヘイター（Yankee Hater）：ヤンキー嫌い」の略なんです。「ヤンキー・ヘイター」イコール「ボストンレッドソックス」ということで「ヤンキー・ヘイター」の帽子を被っているんです。非常におもしろい発想です、ところで、今年松坂と岡島がボストンに行ったことで、日本人会が、今年7月にレッドソックス日本人後援会を作りました。また、レッドソックスのフェンウェイ球場の中に、お寿司のコーナーができていたりしています。レッドソックスは、全米でもっとも有名な歴史のある球団でして、日本でいえば阪神みたいな人気球団です。毎回球場は必ず満員になります。今回松坂が行ってボストンで大歓迎を受けている。こういうことは、日本との間の観光につながるんじゃないかと思えます。もともとボストン近郊には70ぐらいの日本食のレストランがあります。日本食とか日本のアニメとか一連のクールジャパンという日本ブームがあるなかで、松坂の登場によってそういう現象がさらに高まっています。最近ではボストンに、欧州からの観光客もいっぱい来ています。日本からも来てほしいところなんですけど、残念ながら、球場は3万5千しか入らない全米一小さな球場で、毎回満員なものですからチケットをとるのはきわめて大変です。地元においても、なかなか見に行くことが難しく、私も数回しか行けませんでした。しかし、いろんな意味でスポーツを中心にしたボストンの観光というものは、これからも世界的に注目されることと思えます。一方、ボストンには、日系の観光業者が結構いまして、アメリカ人を北海道に連れてくるというツアーをやっています。またさっぽろ雪祭りツアーというのもあります。最近、アメリカでは、教育ツアー（大学教授などのその地域の専門家が同行し、レクチャーする）に関心が高いといわれています。これは、まったく個人的なアイディアですが、北海道の先住民の話とか、北海道の開拓の歴史とか、北海道が開拓使時代にマサチューセッツからいろいろ技術者を呼んで、こういう風に発展してきたとか、その辺のストーリーを作り上げて、ボストンとかマサチューセッツの人達に

提供できるようなツアーを作ることはできないかななどと考えています。こういうことを工夫してやると、観光的な交流もかなり可能性があるのではないかと思います。マサチューセッツ州政府とか、ボストンのマサチューセッツ・北海道協会のメンバーの中に、バイオの専門家なんかも何人いるわけです。州政府もバイオの交流には関心が高いわけで、そうした知日派、親日派の人達をうまく活用すればいいのですが、今は北海道側もなかなかそのきっかけがつかめないという状況と思われまます。



【写真】 大久保 徹夫氏の講演風景

最後に、2010年が、北海道とマサチューセッツ州との交流20周年ですので、ぜひこれを目標にして、北海道の魅力、潜在力、姉妹関係を生かして、世界トップレベルのマサチューセッツ州との産業交流、経済交流をやってもらいたいと思っております。キーワードは「バイオ医療」と「観光分野」ではないかと思います。北海道はアジアにとって、憧れの地、「東洋のスイス」といわれています。それなりに北海道には観光資源としてもいいものがあるのでアジアからは黙っていても多くの観光客がきてくれると思います。一方、欧米人にとっては、何人かの人に聞いてみたのですが、やはり北海道というのは「心地よい」、要するに“comfortable”な場所なのです。自分たちの国と似た非常に気持ちのよいところ、環境のよいところであり、北方圏でもなかなか同じような似た環境のところはないということです。そういう北海道にどんどん欧米はじめ諸外国から研究者、企業、ビジネス関係者、観光客の受入れを促進するというのはやっぱり一番大事なことだと思います。優秀な人材を受け入れていく、いろんな人材を受け入れていく。これが北海道が発展し、活性化するキーワードではないかと思っております。

【大久保 徹夫氏】1951年、東京生まれ。日本貿易振興会（ジェトロ）入会后、サンフランシスコ勤務、シカゴセンター次長、北海道貿易情報センター所長（1998.7～2000.12）、東京の国際交流部国際交流課長を歴任、平成15年（2003年）10月から3年間、在ボストン日本国総領事館の経済担当領事として勤務。平成18年（2006年）10月から、ジェトロ経済分析部次長、次いで、現職海外調査部次長。氏は、北海道在任中、全道的な視野でご活躍された経緯もあり、北海道とマサチューセッツ州の交流に対して絶えずご配慮をいただきました。なお、ジェトロ北海道所長時代には、北方圏センター季刊誌、札幌国際プラザニュースレターおよびジェトロ北海道月刊誌等に北海道の国際ビジネスをテーマに寄稿され、道内各地で講演もされています。又、各紙にマサチューセッツ州の経済ビジネス事情について寄稿されています。

## 平成 19 年度 第 2 回 国際交流ランチセミナー 記録(抄)

### “サンクスギビングパーティー”～異文化理解のふれあい～

日 時 平成 19 年 11 月 23 日(金) 11 時 30 分～14 時 30 分

会 場 レストラン「みもぞ中島公園店」

<ゲスト>	ニコラス ディナンジオ	(アメリカ)	小樽双葉中・高校	(M)
	コリンナ ボロン	(アメリカ)	小樽市 A L T	(F)
	サリーナ ドーリー	(アメリカ)	札幌市 A L T	(F)
	ミエン	(ベトナム)	J I C A 海外技術研修員	(M)
	トウエン	(ベトナム)	J I C A 海外技術研修員	(M)
	チェン リン	(マレーシア)	北海道大学留学生	(F)
	ベマ ワンチュク	(ブータン)	北海道大学留学生	(M)
	マイケル ウィスロフスキー	(アメリカ)	小樽商科大学留学生	(M)
	ヘザー ブロック	(アメリカ)	小樽商科大学留学生	(F)
	ジェナ イサクソン	(アメリカ)	小樽商科大学留学生	(F)
	ウェンセスラオ マンサノ	(メキシコ)	小樽商科大学留学生	(M)
	ワン ショウイ	(中国)	小樽商科大学留学生	(F)
	マキ グルン	(ネパール)	札幌・専門学校生	(M)

概要: この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じ、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。すでに 18 回開催しています。

今回は、札幌国際センターの J I C A 海外技術研修員 2 名、小樽商科大学留学生 5 名、小樽市 A L T 1 名、札幌市 A L T 1 名、北大留学生など合計 13 名のゲストをお迎えして、国際色豊かな楽しい 1 日を過ごしました。ここには紙面の都合で、各国ゲストの「感謝祭」についてのショートスピーチのみをご紹介します。今回の参加者は、当日欠席 4 名をのぞいて、合計 43 名でした。(通訳は、当協会会員・岩崎 修子さん)

#### 資料<アメリカの『サンクスギビング』の原点>

1620 年 9 月 16 日、ピルグリムファーザーズ(102 名の英国清教徒の団)が新天地に信仰の自由を求めて絶対王制下の英国プリマス港をメイフラワー号(181 トンの帆船)で出航して、米国ヴァージニア州ジェームズタウンを目指しますが、嵐に会い約 2 ヶ月後の 11 月 19 日コッド岬に漂着し、現在の米国マサチューセッツ州プリマスを入植地に決めて設営に着手したのは 1620 年 12 月 26 日でした。この困難な大西洋航海の後上陸したのは、まさに厳寒期で飢えと寒さのために大勢の死者が続出して、翌年春の生存者は 50 人程という過酷なスタートとなりました。

そして、先住者に助けられて穀物の種などをもらい耕作したその年のはじめての収穫が多かったの喜び、近隣の入植者やインディアンを招待し、神の恵みに感謝して一緒にご馳走をいただいたのが「サンクスギビング デイ」(4th Thursday of Nov.)のはじまりとされます。こうして米国ニューイングランド植民地開拓の基礎がつけられたのでした。アメリカ建国の歴史の原点といってよいでしょう。

#### 1 Jenna Isaacson (小樽商大留学生) 米国

ハジメマシテ。ジェナ・アイザックソンと申します。米国のサウスダコタ大学で経営管理について学び、今は小樽商科大学で交換留学生として勉強しています。今日皆さんの大変温かいおもてなしに感謝申し上げますと思います。米国では感謝祭は大きな行事です。昨日両親と話したら、今年の感謝祭に 26 人のお客さまを家に招待したそうです。大勢の人にごちそうを出さなくてはな

らないですね。今年は感謝祭に両親に会えなくて大変残念ですが、でも今日ここでたくさんのお親切な人たちに囲まれて、皆さんのあたたかいこころづかいに感謝しています。ありがとうございました。

## **2 Michael Ren Wysolowski (小樽高大留学生) 米国**

はじめまして。マイケル・ウイスロフスキーと申します。皆さんにお会いできて嬉しく思います。私は小樽商科大学の留学生です。経済を勉強しています。米国では感謝祭は祭日ですが、最近、他の祭日と同じように感謝祭もまた、あまりにも商業化されてしまっています。ルーズベルト大統領が一度感謝祭の日時を変更してしまったことがあります。ショッピングシーズンを拡大させるために、第3木曜に変更したのです。その後また第4木曜日に戻されました。私の家族、また他のたくさんの方の家族にとって、ふだんはTVを見ながらそれぞれの部屋でひとりで食事をしたりしていても、この日だけは皆で食卓を囲み、一緒に食事をします。感謝祭は、商業主義の面があったにせよ、私にとっては家族がみな一堂に会する良い機会となっております。ありがとうございました。

## **3 Pema Wangchuk (北大留学生) ブータン**

コンニチワ、ペマと申します。ブータンから来ました。皆様方はブータンが実際にどこにあるのかご存じないのではないかと思います。ヒマラヤにある小さな王国で、中国とインドの間にあり、ネパールの隣です。私は北海道大学の大学院生で農業を学んでいます。感謝祭のパーティに参加するのは今日が初めてです。ブータンは人口が60万人ですが、そのうちの80%が仏教徒で、あとはヒンドゥー教徒ですから、感謝祭は行われておりません。今日は皆さんと一緒にいられて嬉しいです。ありがとうございました。

## **4 Sarina Dorie (札幌市ALT) 米国**

コンニチハ。私は米国オレゴン州、ポートランドから来ました。札幌では、英語教師として働いていますが、アメリカでは5年間美術教師をしていました。米国では感謝祭は重要な祭日です。家族みんなが集まって、一緒にごちそうを食べてお祝いします。感謝祭に私の家族で行う伝統的行事は、皆で食卓を囲み、ひとりずつ、何に対して感謝しているかを述べてゆくことです。今年は、私はたくさんの方のことに感謝しました。今日こちらにお招きいただきましたこと、それから自分の仕事、とても良い生徒たちのこと、それから新しい友達ができたと感謝しました。それで、ひとつ皆さんにもお勧めしたいのですが、全員のスピーチが終わった後で、それぞれ何について感謝しているか各テーブルで話し合ってみてください。ありがとうございました。

## **5 Maki Gurung (札幌・専門学校生) ネパール**

こんにちは。私はマキ・グルンと申します。ネパールから来ました。中国とインドの間にある小さな国です。ペマさんとおっしゃったように、ブータンの隣に位置しています。私はネパール人ですが、トム・ワンという自治区の出身で、そこはグルン部族の国です。まだ実際には自治区にはなってはいませんが、そうなるように闘っているところです。そういうわけで、ネパール国籍ですが、実はネパール人ではありません。ここ札幌ではレコーディングについて学んでいます。私はミュージシャンです。ペマさんもお話されましたが、私たちにとっては、これが初めての感謝祭となります。ここにいられてとても嬉しく思っています。ありがとうございました。

## **6 Corinna Bolon (小樽市ALT) 米国**

こんにちは。コリーナ・ボロンと申します。私も米国オレゴン州ポートランドから来ました。私の一番大好きな感謝祭の思い出についてお話しします。10歳の頃のことでしたが、そのころ私の父は家族の住む場所から遠く離れて働いていました。それでその年の感謝祭は、母と妹と一緒に父の住む街へ電車で行くことになりました。電車に乗るのは初めてでしたので、とてもワクワクしていました。父の住んでいた場所は山の奥深いところで、雪がたくさんあり、私にとってはそんなにたくさんの雪を見るのも初めてでした。雪の中でたくさん遊ぶことができ、私の一番好きな感謝祭となりました。けれども今私は小樽に住み、電車に乗る機会もたくさんあり、雪も毎日たくさん降ります。ですから、今は電車も雪もあまりうれしくなくなってしまいました。そして昨日、雪の中を歩きながら悲しく思っていたときに、ふと気がきました。今日は感謝祭の日だと。それで何に感謝しているか考えてみました。3つ考えました。第1にコンビニが温かい飲み物売っている。第2に伝統的な冬の食べ物、おでんとかお鍋が食べられる。第3に雪の中を歩くのはとてもいい運動になるかもしれない。感謝祭のいいところは、毎日何に感謝すべきなのかを思い出さずということです。よく考えてみると、もっとたくさんの方のことに感謝すべきだと気がきます。たとえば、今日のような機会とか、みんなに会って会話を楽しむこととか、そういうことに気づくことができるのです。ありがとうございました。

## **7 Tran Van Mien (JICA海外技術研修員) ベトナム**

こんにちは。ミエンと申します。ベトナムのホーチミン市から来ました。ホーチミンは以前は長いことサイゴンとして知られていましたが、ベトナムの一番有名な大統領の名を記念してホーチミン市と名付けられました。ベトナムの人口は 8 千万人くらいで、70%は仏教徒、30%はキリスト教徒のカトリックです。ですから、感謝祭はあまり行なわれていませんし、私も感謝祭パーティーに参加するのは、これが初めてです。ベトナムで一番大きな行事はお正月とクリスマスです。今日は暖かいおもてなしをしていただき、また皆さんと楽しく過ごすことができ、大変嬉しく思っています。感謝祭が11月の第4木曜ということは知っていましたが、今までどういう意味があるのかをしりませんでした。この感謝祭のパーティーを催してくださったHOMASに感謝いたします。

## **8 王 肖依 (小樽商大留学生) 中国**

皆様こんにちは。ワン・ショウイと申します。小樽商科大学で学んでいます。今は大学院生なので、札幌に住んでいます。感謝祭のパーティーに参加するのはこれが2度目になりますが、こんなにたくさんの人と一緒に感謝祭をお祝いするのは初めてですので、ここに参加できて嬉しく思います。中国には感謝祭はありませんが、その代わり、旧暦のお正月のお祝いをします。ほとんどの方が旧正月について聞いたことがありだと思えます。中国のほとんどの家族にとっては、旧正月は重要な行事です。旧正月には家族が集い、過去をふりかえり新年を祝います。私の家族にはおもしろい伝統がありまして、お正月には皆で餃子を食べます。家族皆が集まって餃子を作り、餃子の中にコインを入れることもあります。そして皆で餃子を食べる時に、コイン入りの餃子が当たった人は、その年幸運が訪れるといわれます。例えば、学業において良い成績をとるとか、仕事の面で順調とか、そういった幸運です。もう一度、このすばらしいパーティーにお招きいただきましたことを感謝いたします。また来年お会いできることを願っています。ありがとうございました。

## **9 Wenceslao Marzano (小樽商大留学生) メキシコ**

(日本語で)「今年の6月に小樽で観光バスツアーに参加して、北海道・マサチューセッツ協会にお世話になっておりました。ありがとうございました。今日もよろしくお願いします。」メキシコには感謝祭はありません。メキシコではほとんどの人がカトリック教徒で、キリストの誕生日のクリスマスをお祝いしますが、メキシコ人は皆パーティー好きなので、クリスマス前にもお祝いします。それをポサダといいます。それがメキシコ文化における感謝祭に近いかもしれません。というのもその精神が隣人と親しくする、ということだからです。その年に感謝し、その年のことについて話し合います。近所に住んでいる人たちとは、ふだんなかなか言葉を交わす機会がないかもしれません。通りで出会っても手を振るだけかもしれません。でもこの時には、実際に集まって皆で話すよ



い機会となります。ありがとうございました。

#### **10 Heather Brock (小樽高大留学生) 米国**

コンニチハ、ヘザー・ブロックと申します。アメリカ、ミシガン州から来ましたので、雪には慣れていますが、小樽商科大学の交換留学生で、今日はこちらに参加できて嬉しく思っています。最初に、今日は私たちをお招きいただきましてありがとうございます。皆さんの親切に感謝しております。すこしホームシックになっていて、感謝祭だというのに家族と一緒に過ごせないのがさみしく思っていました。こちらで皆さんとともにいられて嬉しく思います。アメリカの感謝祭は、家族が集まっていっしょに過ごすということが大切なのですが、マイケルも先ほど言っていたように、最近は少し商業主義に陥っています。特に感謝祭後は皆早起きしてショッピングに出かけたりなどして。けれども感謝祭の精神は、血がつながっていてもいなくても、一緒に過ごしお互いのことを思いやることにあります。私の一番好きな感謝祭の思い出は、祖母の家を訪れたときのことで。みんなが集まって、一緒に食事をし、ボードゲームなんかをしたり映画を見に行ったり、何でもみんなで一緒にしたことが一番の思い出です。アメリカではそれぞれの家庭で、何が一番感謝するかということをお話しますが、私は、今年は日本に来て勉強する機会を与えられたことに感謝しています。それから一緒に住んでいる他の留学生たちにも感謝しています。みんないい人たちが、小樽での家族のような気がします。それからここにいらっしゃる日本の皆さんとも家族のような関係になりたいと思います。ありがとうございました。

#### **11 Le Trung Tuyen (JICA海外技術研修員) ベトナム**

ミナサマコンニチハ、トゥエンと申します。ベトナムから来ました。北海道大学大学院の工学研究室で学んでいます。ベトナムではJICAのプロジェクトで働いていました。日本に来るのは3度目で、最初は2001年、2度目は2003年、そして今回となります。私は首都ハノイから来ました。私の住んでいたところは中国に近い地域なのですが、何人かの方に中国人みたいに見えると言われました。4月に来日しまして、2009年まで滞在の予定です。大学院を卒業したら、ベトナムへ帰り、JICAのプロジェクトで働く予定です。ベトナムでは感謝祭が行われていなかったので、今まで感謝祭には参加したことがありませんでした。ですから今日は参加できて、とても興味深く思いました。このような会を催してくださいましたことに対し、HOMASにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

#### **12 チェン・リン (北大留学生) マレーシア**

皆様こんにちは。申し訳ないのですが、昨日ひどいかぜをひいてしまい、声があまり出ないので、私の言うことが聞き取りにくいかもしれません。最初に申し上げたいのは、今日はこの感謝祭のパーティーにお招きいただきまして、ありがとうございます。私はマレーシアから来て、リンと申します。マレーシアは、タイとシンガポールの間に位置し、熱帯の国です。暑い国ですから、こちらに来て初めて雪を見ました。ここは寒くて、毎日凍えています(笑)。私の国は日本とはとても違っています。日本には異なる民族が住んでいませんが、マレーシアでは中国系、インド系、インドネシア系の3民族がいます。それぞれが固有の文化、言語をもっているため、複雑すぎてちょっと想像するのが難しいかもしれませんね。マレーシアではキリスト教徒は少数派となるので、感謝祭は行われておりません。ですから、これが私にとって初めての感謝祭の集まりとなります。私は、何かに感謝をささげる日というのは、感謝祭の日だけでなく毎日行うべきだと思います。いま自分たちが持っているもの、仕事に対して、食べ物に対して、毎日感謝すべきなのではないかと思えます。以上です。ありがとうございました。

#### **13 Nicholas Dirunzio (小樽双葉中・高校) 米国**

こんにちは皆さん。ニコラス・ディナンジオと申します。小樽双葉中学校・高校で働いています。私が最後のゲストスピーカーとなりますが、皆さん時計を気にしていらっしやると思いますので短めにいたします。皆さんがおっしゃいましたように、米国では感謝祭は大きな行事となっております。日本に来て4年となりますが、家族ということの意味は私にとって年ごとに大きくなってきました。このような日がなければ、私たちがお互い話しあう時間はなかなか取れないものです。どんなに時間を取ろうとがんばってみても、現代社会というのはあまりにも忙しすぎます。自分がとてもラッキーだったと思うのは、アメリカにいる家族と離れてさみしくはあっても、こちらで家族をみつけれられたことです。今年は2人家族ですが、来年には3人家族となります。それでは、今日はお招きいただきまして、ありがとうございました。

## 事務局短信

### パークリー音楽院タイアップ 「北海道グループキャンプ2008」(2008, 3, 24~30) について

アメリカ・ボストンの名門パークリー音楽院のタイガー大越教授他5名の音楽専門教授陣を招いて、札幌市芸術文化財団の主催で北海道におけるジャズ音楽文化の振興と若い世代を育成するためのジャズセミナー「北海道グループキャンプ2008」が下記要領で開催されます。今年度で3回目になります。なお、「北海道・マサチューセッツ協会」も後援しています。

開催期間 2008年3月24日~30日<6日間(27日は休講)>

会場 札幌芸術の森アートホール

参加対象 小(高学年)・中学生 約120名 <受講料は各パートとも4万円>

募集部門 アルトサクソ、テナーサクソ、バリトンサクソ、トランペット、トロンボーン、ドラム、パーカッション、ベース、ピアノ

講師陣 タイガー・大越(主任、金管楽器、トランペット)

デヴィッド・クラーク(ベース)

ジョアン・ブラッキー(ピアノ)

ユーロン・イズラエル(ドラム、パーカッション)

ジム・オドグレン(木管楽器、アルトサクソ)

なお、受講者の中から優秀者数名に、パークリー賞として「パークリー夏期講座」(5週間)への参加資格(授業料免除)が与えられます。

### ダーナ・ウェルトン 新米国総領事が着任されました。

在札幌米国総領事館のダーナ・ウェルトン新総領事が9月13日ご着任されました。ウェルトン氏は東京の米国大使館や福岡・名古屋の各総領事館、インドネシア米国大使館を歴任されています。9年間の日本での生活経験もあり、日本語が堪能で、日本や東アジアの芸術文化の造詣も深いとのこと。来年の「北海道洞爺湖サミット」もあり、今後のご活躍が期待されます。当協会顧問にも就任されました。

### 新入会員紹介(2007年7月26日以降) <個人会員>

新内 秀一 志村 晟 笠原 真由美

### 「HOMAS」ニューズレターの特集記事について

これまで、特集として「北海道の基礎を築いた指導者たち」のシリーズで、本道とマ州との関連を基本理念としながら、多くの人物にスポットライトを当ててきましたが、いかがでしたでしょうか。

- ① 開拓使顧問ホーレス・ケブロンと開拓次官黒田清隆(No. 43)
- ② 札幌村の開祖大友亀太郎と日本畜産の指導者エドウィン・ダン(No. 44)
- ③ 日本の天才級の人材を輩出させたウィリアム・ホィーラ(No. 45)
- ④ 多くの製造実験を行ったペン・ハローと北海道農法の基礎を築いたブルックス(No. 46)
- ⑤ 本道の病院施設の充実や治療法の指導に尽力したカッター<外国人教師10名全員の氏名列挙>
- クラーク博士来道130周年と曾孫スチュウ・クラーク氏ご夫妻(No. 48) ↑(No. 47)
- ⑥ 真駒内を拓いたダンの牧牛場とモーテン・ラーセンの有畜農業<エドウィン・ダン来札130周年>
- 日本最初の米国人英語教師ラナルド・マクドナルド(No. 50) ↑(No. 49)
- ⑦ 地質測量・鉱床調査のベンジャミン・S・ライマン(No. 51)

これらを綴り合せると、開拓使時代の指導者たちの具体的な人物像とその業績が浮かび上がってくるはずなのですが、あちこち綻びができてしまい、全体的な修正が必要なようですので、いつか稿を改めたいと考えています。皆様のご教示をいただければ幸いです。(執筆担当 中垣 正史)

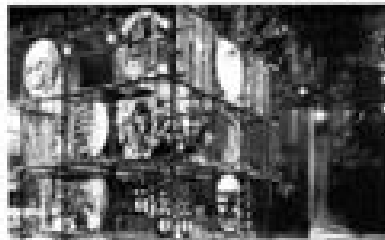


# SAPPORO BEER MUSEUM

サッポロビール博物館



サッポロビール博物館は、人々にビールに対する知識を深めていただく目的で1978年(昭和62)7月に開館し、2004年(平成16)リニューアルオープンいたしました。日本で唯一のビールに関する博物館です。



ビールの興いを人々のもとへ  
北海道で育まれたビールの興いが人々に届けられ、  
醸造していく様子をご紹介します。

#### 【インフォメーション】

所在地 〒065-8633 札幌市東区北7条東9丁目  
お問い合わせ TEL 011-731-4368  
FAX 011-741-9961  
開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)  
休館日 年末年始  
ホームページでもご案内しております。  
[www.sapporobeer.jp](http://www.sapporobeer.jp)



サッポロ・アドコレクション  
時代とビールの関わりをポスター広告の変遷で  
ご紹介します。

#### 【アクセス】

中央バス  
・「札幌駅前」(東急百貨店南側)よりサッポロビール園・ファクトリー線(環88)乗車、「サッポロビール園」下車すぐ(約20分程度)  
・「札幌駅北口」より(東63)乗車、「北7条7」下車、(1時間に2本程度)または、サッポロビール園・ファクトリー線(188)乗車、「サッポロビール園」下車(1時間に2～3本程度)



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で、のんだあとはリサイクル。⑮  
サッポロビール株式会社 [www.sapporobeer.jp](http://www.sapporobeer.jp)

ふるさとのために、何ができるだろう？

## ★北海道はサッポロビール

北海道のビールは「BEER BEER HOKKAIDO」です。  
北海道産ビールは「BEER」